【麻酔科研修プログラム】(必修8週間)

概要

本プログラムは2年間の初期臨床研修プログラムの中で、選択必修科目として行う麻酔科研修のプログラムである。研修医全員を対象としており、8週間で目標を達成することを目指している。

1. 一般目標 (General Instructional Objective: GIO)

- (1) 気道確保、気管挿管、血管確保などの基本的手技について、麻酔管理を通じて修得する。
- (2) 周術期(術前、術中、術後)の麻酔管理を通じて、急性期の呼吸、循環、代謝等の患者管理を理解する。

2. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs)

[術前準備]

- (1) 麻酔器ならびに必要な麻酔器具の原理と使い方を理解し、準備、点検ができる。
- (2) 各種患者モニターの取り扱い・準備と測定結果の解釈ができる。

[術中管理]

- (1) 血管確保、気道確保、気管挿管について適応、方法、合併症およびその対処法を理解し、実施できる。
- (2) 静脈麻酔薬、吸入麻酔薬、筋弛緩薬の薬理を理解し、実際の全身麻酔管理に使用することができる。
- (3) 麻酔記録を正確に記載することができる。
- (4) 術中バイタルサインやモニターの値、術中検査値(動脈血ガスetc)の意味を理解し、実際の麻酔管理に役立てることができる。
- (5) 術中輸液管理を、正確な知識に基づいて行うことができる。
- (6) 周術期に使用される昇圧薬、降圧薬、カテコラミン、血管拡張薬などの薬理学的知識を修得し、実際に患者管理に役立てることができる。
- (7) 中心静脈穿刺、動脈カニューレションなどの侵襲的手技の適応、方法、合併症を理解する。
また中心静脈圧測定および観血的動脈圧測定を行うことができ、その結果を患者管理に応用できる。
- (8) 麻酔終了後、患者を観察し、手術室からの退室基準を満たすかどうか判断できる。

3. 経験目標

- ・麻酔器、気管チューブ、静脈麻酔薬等、全身麻酔に使用する器具や薬剤の準備を学ぶ
- ・各種モニタリングの基本手技を学ぶ
- ・気管挿管、マスク、ラリンジアルマスクによる気道の確保と気道閉塞時の対処法について学ぶ
- ・吸入麻酔による麻酔の維持について学ぶ(気化器の操作、麻酔用ベンチレータの設定等)
- ・筋弛緩薬の投与方法、筋弛緩の程度の把握、リバースの方法と時期について学ぶ
- ・救急蘇生法について理解を深め、実際にBSLを実施できる様にする。

4. LS 方略

研修期間: 8週間以上

第1週

- (1) 麻酔器や気管チューブ、静脈麻酔薬等全身麻酔に使用する器具や薬剤の準備を学ぶ。
- (2) 実際の麻酔管理を見学し、その流れを理僻する。

第2週、3週

- (1) 産婦人科、耳鼻科、整形外科、外科(開腹手術を除く)等の合併症のない予定手術患者において点滴、モニタリング、気管挿管等の全身麻酔における基本的手技を学ぶ。
- (2) 上記患者において、吸入麻酔薬による麻酔の維持について学ぶ(気化器の操作ベンチレータの設定etc)。

第4週

- (1) 外科開腹患者(上腹部も含む)において、開腹の合併症、筋弛緩剤の投与方法、筋弛緩の程度の把握、および筋弛緩のリバースの方法と時期などについて学ぶ。

5. EV 評価

自己評価と指導医による評価を行う。

1) 知識と能力

全身麻酔に関する基本的手技

静脈確保

気道確保、マスク換気

気管挿管

術中モニターの活用
術中の呼吸、循環管理
術中輸液管理
術中使用薬に対する知識

2) 勤務態度

上司、同僚、他の職員との協調性
時間厳守
麻酔症例への積極性

3) 研修プログラム・指導體制の評価

- ① 研修医が研修管理委員会にて意見要望を述べる。
- ② EPOC内のプログラム評価記入を検証して、臨床研修管理委員会通じてフィードバックする。
- ③ 年1回の無記名アンケートを行い、各診療科、施設での研修の評価と研修全般に関しての意見、要望を収集し、研修管理委員会に報告審理し、必要に応じてフィードバックする。
- ④ EPOC、研修医手帳を用いて指導医・指導體制を評価する。

共通項目：初期研修中のアルバイトは禁止。